

特設展

時空を旅する作家 辻邦生展 生誕100年

2025年4月26日(土)～6月22日(日)



辻邦生 撮影 田沼武能

学習院大学史料館の玄関にて 1992(平成4)年



辻邦生が愛用したトランク・カメラ・サングラス
学習院大学史料館蔵*

古今東西の題材で、美と理想を小説に表現することを追求した作家・辻邦生(1925～1999 東京生まれ)。古代ローマを舞台にした「背教者ユリアヌス」、ルネサンス期フィレンツェのボッティチェリを描いた「春の戴冠」、山梨県笛吹市春日居町国府の父祖の地を探索した「銀杏散りやまず」、ゆかりの人の多彩な声で語られる「西行花伝」などの代表作とともに、その生涯を紹介します。

特別協力 学習院大学史料館(霞会館記念学習院ミュージアム)

協力 辻邦生生誕100年記念事業組織委員会

そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

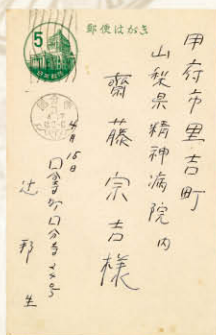
Yamanashi Prefectural Museum of Literature



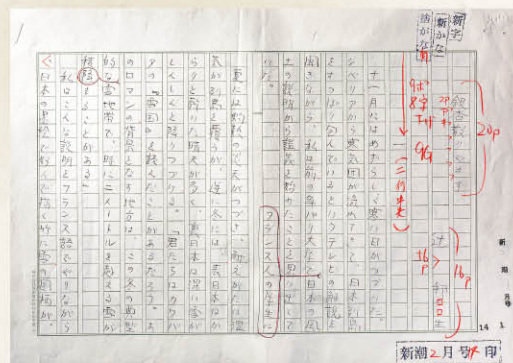
時空を旅する作家 辻邦生展 生誕100年



1



2



3



4

- 辻邦生の父・靖剛の使用した薩摩琵琶「青霧」
学習院大学史料館蔵＊
靖剛は薩摩琵琶の奏者で、その振興に尽力した。
- 辻邦生 北杜夫宛はがき 1956(昭和31)年4月16日
学習院大学史料館蔵
齋藤宗吉は北杜夫(小説家 1927～2011)の本名。北は旧制松本高校時代からの友人で、当時、山梨県立精神病院に医師として勤務し、多忙を極めていた。
- 辻邦生「銀杏散りやまず」第1回原稿
学習院大学史料館蔵＊
「新潮」1982(昭和57)年2月号掲載
- 辻邦生「西行花伝」私家本 1997(平成9)年6月
装丁・木口木版画口絵 柄澤齊 製本 大家利夫
学習院大学史料館蔵
表紙に甲州印伝があらわれている。

＊撮影 瀧澤国敏

日本語の宇宙

富岡 幸一郎

辻邦生の生誕百年の特設展がひらかれる。

一九二五年、大正十四年の九月に辻邦生は東京の本郷区駒込で生まれている。原籍地は山梨県東山梨郡春日居村（現・笛吹市春日居町）である。

原籍地が山梨であるのは、父親の郷里だからである。その父・辻靖剛が逝去したことがきっかけで、作家は辻家の祖先のことに関心を持ち、甲州の歴史を背景とした『銀杏散りやまず』（一九八九年）を著す。歴史小説を多く書いてきた辻邦生のなかでもこの長編は、代々病院を家業としてきた自らの「家」のはるかな時空を描いた異色作となった。

父のなかの「故郷」が、作家の心のなかの「故郷」を発見させた。そう、山梨県は、いや甲州は、辻邦生のほんとうの意味でのふるさとなのである。だから、一九九九年、平成十一年に滞在先の軽井沢で七十四歳で逝去するが、軽井沢山荘での葬儀ののち、山梨県の大中院で作家の葬儀が行なわれた。

二〇〇六年、平成十八年には『辻邦生全集』（全二十巻）が完結し、その文書の全体があらためて姿を現わす。美しい造本の第一巻が今、私の手元にあるが、『廻廊にて』『夏の砦』そして『安土往還記』の初期の長編が収められている。辻邦生の作家としてのデビューは、雑誌『近代文学』に連載され、一九六三年に単行本となる『廻廊にて』であり、三十八歳の時である。決して早い出発ではない。しかしフランスでの滞在など、作家としての十分な修養と人生の経験を積んでおり、以後亡くなる日まで一日も休むことなく巨大な作品群が書き続けられることになった。

それは明治以降の日本の近代文学において、これまでにない硬質でありかつ柔軟な、鋼のような日本語散文を実現し、ヨーロッパの文芸をわが物とすること、『背教者ユリアヌス』『春の戴冠』などの壮大な西洋を舞台とした歴史小説を生み出した。

全集の十一、二巻には大作『フーシェ革命暦』が収められている。この作品を読んだときの衝撃は今も忘れることができない。フランス革命

という歴史の激流を、ジョセフ・フーシェという革命が生み落した謎めいた人物の視点によって俯瞰していくのであるが、この本の第一部、二部（三部は雑誌連載されたが単行本にされることはなかった）が刊行される直前に、私は作家に直にインタビューする機会に恵まれた。一九八九年七月のことである。第二部はバスチュー襲撃のあった一七八九年七月十四日で終わっている。

つまり、辻邦生はフランス革命から二百年という歴史の現実のなかで、この大長編にいだんだのである。一九八九年の十月にはベルリンの壁が崩壊し、世界史の大きな変動がはじまる。作家にとって「歴史」を描くことはただ過ぎ去ったものを捉え直すのではなく、むしろ「現在」を描くことに他ならない。インタビューで、辻邦生が語った次のような言葉はとても印象的であった。

『フランス革命で近代を開き、二百年かかって二十世紀のこの時点でポストモダンという言葉が出てきて近代を閉じようとしている。そういうときだから、フランス革命を見ると、近代そのものが非常によく見え、逆に今まで見えなかったフランス革命が見えてくると言えるんじゃないですか』

フランス革命には「近代」のあらゆる要素が凝縮している。二十一世紀の現在から、もう一度この大長編を読み直してみれば、東西冷戦後のこの三十有余年の現代史が、西洋近代の終焉という大きな歴史のドラマがより正確に見えてくるだろう。史実は小説という仮構、フィクションの力によって、その真実に光が当てられるからである。

インタビューをした時の作家の端正な姿をよく覚えている。龐大な原稿を書きあげたばかりの熱気を孕みつつ、その語り口はあくまでも静かで丁寧であった。年譜を確認してみると、この年の九月にはあの『銀杏散りやまず』を刊行している。全集の月報には奥様の辻佐保子さんの『絶えず書く』人と暮らして」というエッセイが連載されているが、辻邦生はまさに「絶えず書く」ことをやめなかった。その全作品は、きらびやかな日本語の宇宙として遺されている。

特設展 作家の絵どころ 視覚で楽しむ文学展



夏目漱石『ぐみじんそう 虞美人草』1908(明治41)年1月
春陽堂 装幀 橋口五葉



芥川龍之介 風景画 1909(明治42)年

2025年7月12日(土)～8月24日(日)

作家の中には、自ら好んで絵を描いたり、画家に装画を依頼したりするほど著書の装幀にこだわった人たちがいます。芥川龍之介は少年時代から回覧雑誌のカットなどを手がけ、小説家となってからも小穴隆一ら画家たちと親しく交流しました。また、図画の教員だった父をもつ檀一雄は、自身も様々なモチーフを題材に絵を描きました。文学と美術が織りなす豊かなコラボレーションの世界を紹介します。

常設展

第1室～第4室(展示室A)

樋口一葉、芥川龍之介、飯田蛇笏など山梨県出身・ゆかりの作家を紹介する各コーナーの展示替えとともに、第1室でテーマ展示を次のとおり行います。

春の常設展「飯田蛇笏 生誕140年」 2025年3月4日(火)～6月1日(日)

夏の常設展「戦後80年 文学者と疎開 井伏鱒二・太宰治」

2025年6月3日(火)～8月24日(日)

秋の常設展「戦後80年 文学者と疎開 金子光晴」

2025年8月26日(火)～11月30日(日)

第5室(展示室B)

山梨県出身・ゆかりの文学者104名をジャンルごとに前後期に分けて展示します。

前期:小説・評論・随筆・翻訳・ジャーナリズム・戯曲・脚本・童話・童謡

2025年4月1日(火)～8月24日(日)

イベントガイド

2025年4月～9月

*各イベントの詳細や申込方法は、当館ホームページやチラシで順次発表します。
記載内容に変更がある場合がありますので、ご確認の上、お申し込みください。

特設展「時空を旅する作家 辻邦生展 生誕100年」関連イベント

公演会「琵琶と声明による 西行花伝 聲の帖」

6月8日(日) 午後3時30分～午後5時予定

会場: 講堂 定員: 500名 無料

電話または当館ホームページのイベント欄からお申し込みください。

山梨県とも関わりの深い小説「西行花伝」を、平家琵琶(須田誠舟)、声明(田中康寛)、横笛(鳳聲晴久)他の演奏でお聞きいただきます。構成・演出は茂手木潔子(上越教育大学名誉教授)。

辻邦生展をご覧になる方は開演前にご観覧ください。

その他のイベント

絵手紙ワークショップ

8月3日(日) 午前と午後の部があります。

会場: 茶室 定員: 各部10名

未来の小説家たちへ ―川上健一 次世代のための小説創作教室―

山梨県在住の小説家、川上健一による小説教室。対象: 15歳～25歳

8月9日(土) 午後1時30分～午後4時

会場: 研修室 定員: 10名程度 無料

三枝浩樹 初心者短歌教室(全2回)

歌人の三枝浩樹による講義・実作指導。2回とも出席できる方、お申し込みください。

1回目 6月14日(土) 午後1時30分～午後3時

2回目 7月 5日(土) 午後1時30分～午後3時

会場: 研修室 定員: 20名 無料

小さな本(ZINE)作り教室

アーティスト吉田朝麻による手作り小冊子(ZINE)の制作指導。作った本は持ち帰ることができます。

7月19日(土) 午前の部: 午前9時30分～午後0時30分

午後の部: 午後1時30分～午後4時30分

会場: 研修室 定員: 各部20名 材料費500円

ZINEフェスティバル2025

県内外から集めた様々なZINEの展示や無料配布を行います。

7月20日(日) 午前10時30分～午後4時

会場: 研修室 入場無料



川上健一氏



三枝浩樹氏



吉田朝麻氏

年間文学講座

*講座1・2ともに午後2時～午後3時30分

*講座3は午後2時～午後3時10分

*4月22日(火)よりお電話にてお申し込みください。

*年間を通してのお申込みも可能です。先着順で受付け、定員になり次第締め切ります。

講座1 (古典文学) 源氏物語の男たち

講師：池田尚隆 (山梨大学名誉教授) 会場：講堂 定員：200名 無料

5月10日(土) 桐壺帝

9月20日(土) 朱雀院

6月21日(土) 左大臣・右大臣

10月11日(土) 冷泉院

7月12日(土) 按察大納言・明石の入道

11月22日(土) 光源氏その一

8月23日(土) 頭中將

12月 6日(土) 光源氏その二

講座2 (近現代文学) 私の出会った作家たち 創作の現場に立ち会う

講師：前田速夫 (文芸雑誌「新潮」元編集長) 会場：研修室 定員：70名 無料

5月29日(木) 辻邦生と北杜夫 作家の友情 ―旧制高校生の教養

6月19日(木) 瀬戸内寂聴と田辺聖子 人気作家の条件 ―読者を大切にする

7月24日(木) 川端康成と三島由紀夫 往復書簡から ―自死に至るまで

8月28日(木) 大岡昇平と武田泰淳 富士山麓の二人 ―大家の晩年

9月25日(木) 島尾敏雄と島尾ミホ 『死の棘日記』をめぐって ―夫婦の壮絶な死闘

10月16日(木) 吉田知子と村田喜代子 異世界への扉 ―地方作家の底力

11月 6日(木) 車谷長吉と平野啓一郎 作家デビューまで ―無名の新人の担当編集者として並走して

12月18日(木) 津島佑子と小川洋子 世界に通じる普遍性 ―国内外で高まる評価

講座3 作家と作品

当館の学芸員が講師を務めます 会場：研修室 定員：70名 無料

5月18日(日) 中野和子 辻邦生作品の魅力 ―「銀杏散りやまず」「西行花伝」を中心に

6月22日(日) 保坂雅子 戦後80年 ―甲運村に疎開した井伏鱒二

7月27日(日) 伊藤夏穂 特設展「作家の絵ごころ」展示資料の見どころ

名作映画鑑賞会

5月24日(土) 「パリの恋人」 脚本：レナード・ガーシュ 監督：スタンリー・ドーネン

出演：オードリー・ヘプバーン、フレッド・アステア 他 カラー 103分

吹替版(歌唱シーンなど一部に字幕あり) (申込開始日 4月17日)

8月 2日(土) 「エクレール・お菓子放浪記」 原作：西村滋 監督：近藤明男

出演：吉井一肇、早織、遠藤憲一、高橋恵子、林隆三、いしだあゆみ 他 カラー 105分

(申込開始日 6月20日)

*2回とも上映は午後1時30分から。会場：講堂 定員：300名 無料

*電話または当館ホームページの「イベント」欄の申込フォームからお申し込みください。

先着順で定員になり次第締め切ります。

閲覧室

入場
無料

資料紹介

定期的にテーマを設け、所蔵している図書、雑誌を紹介しています。

資料は、直接手にってご覧いただくことができます。



閲覧室資料紹介

「辻邦生を読む」

4月25日(金)～6月22日(日)

「装幀を楽しむ」

7月11日(金)～8月24日(日)

「どうぶつとぶんがく」

9月12日(金)～11月24日(月・祝)

昭和100年記念資料紹介

「戦後80年 戦争と文学」

8月27日(水)～9月10日(水)

閲覧室トーク

閲覧室の利用方法や、書庫で保管している貴重な図書・雑誌についてご案内します。

各回午後1時30分から。先着10名。

5月4日(日・祝)／7月13日(日)／8月10日(日)

*事前に電話または閲覧室カウンターでお申し込みください。

寄贈資料より (2024年8月～2025年1月)

- 奥山眞佐子氏より「衆議院選挙不正発覚の果てに やみ夜」ポスター1点
- 三浦佳子氏より三浦宏作の樋口一葉の住居丸山福山町の家と「大つごもり」の舞台山村家の模型2点。
- 石川泰平氏より近藤信行「金峰山」原稿など特殊資料2点。
- 王憶雲氏より「中村星湖(他們起舞)―以星湖談及國木田獨歩の作品進行探討―」抜き刷り1点。
- 柏木定子氏より森鷗外「おほけなきことゝもしらてなへてよのかたらし草にせしうれしき」色紙複製など特殊資料23点。
- 常住ふき氏より藤原定「おうい雲とか…」原稿など特殊資料71点。
- 秋元千恵子氏より「短歌誌 新月 掲載 上田三四二評論抄」抜き刷りなど特殊資料2点。
- 安部龍太氏より飯田蛇笏「秋たつや川瀬にまじる風の音」短冊ほか特殊資料3点。
- 三橋透氏より石原舟月「団子花つばらに枯れて撈がれけり」短冊など特殊資料143点、図書1点。
- 小林英子氏より山崎方代「うれしくて哭けば涙かこぼれ来し雪割草は白い花なり」短冊など特殊資料11点。
- 成島玖美子氏より齋藤静輝画「檜山の里へ」(成島俊司著)表紙画額装1点。
- 林弘記氏より幸富講寄せ書き皿1点。
- 田所美恵子氏より「[に]ごりえ」舞台「菊の井」模型針穴写真額装など特殊資料50点、図書4点。
- 吉澤直人氏より井伏鱒二「君は天才。」原稿1点、図書1点。
- 金子眞土氏より金子兜太「日の夕べ天空を去る一孤かな」軸装など特殊資料3点、図書1点。
- 芦澤紗知子氏より芦澤一洋「鱒自悠悠」他小色紙1点。
- 古屋良昭氏より「クレソン」挿絵原画7点。
- 浅川洋氏より「流刑地にて」挿絵原画18点。

次の皆様からも図書・雑誌等をご寄贈いただきました。(敬称略)

青木道枝	新井藤治	池内規行	石川楠緒子	井出和枝	Viviane Duvergé-Laulhé
兎束保之	大下一真	児玉佳久	五島高資	佐野秀延	田中収 田中浩司
田中真知子	谷口ちかえ	堤聖子	長澤洋子	中村吾郎	野口正士 藤田博
増田チサ子	水木亮	宮野由梨香	望月久代	森うずまき	山城千恵子 渡部有紀子

この他に団体の方々からもご寄贈いただいております。

ご案内

Information

内容が変更になる場合がございます。ご来館前に当館ホームページを必ずご覧ください。

開館時間

展示室	午前9時～午後5時 (入室は午後4時30分まで)
閲覧室	午前9時～午後7時 (土・日・祝は午後6時まで)
ミュージアム ショップ	午前9時30分～午後4時20分

*営業時間は変更になる場合があります。

休館日(4～9月)

4月	7・14・21日
5月	7・12・19・26日
6月	2・9・16・23・30日
7月	7・14・22・28日
8月	4・18・25日
9月	1・8・16・24・29日

展示室観覧料

	常設展(特設展)		美術館との 共通券	企画展		常設展と企画展の セット券
	個人	団体 (20名以上)		個人	団体	
一般	330円	260円	680円	600円	480円	740円
大学生	220円	170円	340円	400円	320円	490円

*団体料金は20名以上の団体、県内宿泊者割引適用。

*高校生以下の児童・生徒、65歳以上の方(年齢がわかるもの持参、県外在住の方は常設展のみ)、障害者手帳をご持参の方およびその介護をされる方は無料です。

*大学生と高校生は学生証等持参。

施設利用のお申込みについて

- 講堂・研修室・茶室のお申込みは、使用しようとする日の6ヶ月前から原則として10日前までです。
- お申込みは開館日の午前9時より受け付けます。文学館チケット売場まで申請者の印鑑をお持ちのうえ、お越しください。
受付時間は午前9時～午後4時30分です。
- 電話での仮予約が可能ですが、本申請前にぜひご活用ください。(055-235-8080)
仮予約の受付時間は午前10時～午後4時30分です。
- いずれも休館日は受け付けません。使用上の注意はお申込みの際、ご説明いたします。

交通のご案内

中央自動車道

- 甲府昭和インターチェンジより約10分
- 双葉スマートインターチェンジより約10分 ※ETC専用

中部横断自動車道

- 白根インターチェンジより約20分

JR中央本線甲府駅より

- JR甲府駅バスターミナル(南口)1番乗り場より、39系統 御勅使・03・04系統 竜王駅経由敷島営業所、35系統 大草 経由葦崎駅、30系統 貴川団地各行各きのバスで約15分、「山梨県立美術館」下車。
※山梨県立文学館ホームページからも、バスの時刻表をご覧ください。
- タクシーで約15分。



そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

〒400-0065 山梨県甲府市貴川1-5-35
TEL: 055-235-8080 FAX: 055-226-9032
<https://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

